

世界中の人がきれいな水と出会うために

沖繩県 城東中学校 二年 下地 杏梨

「水、出さなければいけないよ。」

「大切に使うよ。」

これは私が今まで祖母に何度も言われてきた言葉です。水なんて当たり前にあるもの、蛇口をひねれば必ず水が出てくる。そう思っていた私は、今まで祖母に言われてきた言葉をあまり考えることなく生活していました。しかし、あることをきっかけにこの考え方が変化したのです。

それは、総合的な学習の時間で地下ダム資料館の見学をしたことです。なぜ地下ダムが必要だったのか、宮古島の水資源について、多くのことを学びました。私達の住んでいる宮古島は、降水量が多い島です。しかし、地層の性質の関係で、雨が降っても、四十パーセントは海に流れ、五十パーセントは蒸発するため、たったの十パーセントしか残らないので、常に水不足と隣り合わせの生活をしていたそうです。農業を行う上で、この状況はとても大変で、干ばつに悩まされることも少なくはなかったのです。そこで、水不足を解消するためにできたのが地下ダムです。この地下ダムによって沢山の地下水をため、必要なときに必要な分だけ水を送れるようになり、島の農業や産業が発展しました。また農業用水だけでなく、私達の飲み水も地下からくみ上げた地下水です。今、私達が水に困る事なく、昔よりも水に恵まれた生活ができているのは、たくさんの人々の技術と想いがあったからです。安心した暮らしができるのも、水のおかげだと言っても過言ではないと思います。

今でも世界には二十二億人、つまり十人に三人が安全に管理された水を使用できずにいるそうです。私は、SDGSについて調べた時に目にしたユニセフのCMを今でも鮮明に覚えています。茶色く濁った水を小さな手ですくって飲んでいる子どもの切ない表情、水不足が原因でポロポロに乾燥した地面を歩く少年。水くみで、学校にいく時間を奪われる

少年。本当に胸が締め付けられるような内容でした。

このように水不足で困っている人を一人でも少なくするために私達にできることはどんな事でしょうか。世界の水不足の原因の一つは、水の使用量の増加だと言われています。これは、人口増加も要因の一つだとは思いますが、一番は「水は当たり前前にあるものだ」と思い、贅沢に使用している人が多い事だと思います。最近の宮古島でも観光客増加によって水不足が進行しているようです。水に困ったことがない暮らしの中で、水不足なんて関係ないと思っていまいませんか。しかし地下水にも限界があるため、水不足になる可能性も少なくはありません。資源には限りがあるのです。だからこそ私達は世界中の人々や地域の為にも、節水に取り組んでいく必要があるとおもいます。お風呂で必要がない時は水を止める、野菜や食器はため洗いをする。など一人ひとりのこの小さな行動の積み重ねが、やがて大きな力になっていき、これが水不足を減らし、一人でも多くの命を守ることに繋がっていくと思います。

私も、水について考え、学んできた今だからこそ、祖母に言われてきた言葉の重みを感じられます。生きるために大切な水。これは当たり前にあるものじゃない。だからこの貴重な水を守るために、自分自身の日々の生活を見直し、水不足を減少させるために中学生の私にもできることを考えて行動していこうと思います。世界中の人が、きれいな水と出会うために。